



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月1日

上場会社名 エーザイ株式会社

上場取引所 東 大

コード番号 4523 URL <http://www.eisai.co.jp>

代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 内藤 晴夫

問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役パブリックアフェアーズ担当 (氏名) 土屋 裕

四半期報告書提出予定日 平成23年11月7日

配当支払開始予定日

TEL 03-3817-5120

平成23年11月17日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	331,021	△19.7	50,448	△24.9	47,347	△23.8	33,326	△16.6
23年3月期第2四半期	412,283	4.4	67,191	36.8	62,167	37.5	39,949	29.2

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 6,220百万円 (10.0%) 23年3月期第2四半期 5,655百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	116.95	116.94
23年3月期第2四半期	140.21	140.20

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第2四半期	943,208	393,851	41.1	1,360.40
23年3月期	1,046,291	410,370	38.6	1,418.35

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 387,670百万円 23年3月期 404,170百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	70.00	—	80.00	150.00
24年3月期	—	70.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	80.00	150.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	654,000	△14.9	100,000	△11.6	94,000	△10.7	67,500	0.2	236.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ― 社 (社名) 、 除外 ― 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| ④ 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	296,566,949 株	23年3月期	296,566,949 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	11,598,412 株	23年3月期	11,608,283 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	284,963,668 株	23年3月期2Q	284,936,537 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

予想数値・予想の前提条件その他に関する事項については、10ページをご覧ください。

【添付資料】

添付資料の目次

1. 当四半期決算の連結業績等に関する定性的情報	(ページ)
1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
2) 研究開発などの状況	5
3) 連結財政状態に関する定性的情報	8
4) 利益配分に関する考え方および当中間（第2四半期末）配当	9
5) 連結業績予想に関する定性的情報	10
6) コーポレートガバナンスに関連する事項	12
2. サマリー情報（その他）に関する事項	
1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	13
2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	13
3) 会計方針の変更・会計上の見積もりの変更・修正再表示	13
3. 四半期連結財務諸表	
1) 四半期連結貸借対照表	14
2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	16
3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	18
4) 継続企業の前提に関する注記	19
5) セグメント情報	19
6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	21
7) 重要な後発事象	21
8) 注記事項	21

1. 当四半期決算の連結業績等に関する定性的情報

1) 連結経営成績に関する定性的情報（累計期間：平成23年4月1日～平成23年9月30日）

[売上高、利益の状況]

○ 当四半期の連結業績は、次のとおりとなりました。

売上高	3,310億21百万円	(前年同期比)	19.7%減
営業利益	504億48百万円	(同)	24.9%減
経常利益	473億47百万円	(同)	23.8%減
四半期純利益	333億26百万円	(同)	16.6%減

○ 売上高については、アルツハイマー型認知症治療剤「アリセプト」が、米国における物質特許満了により813億54百万円(前年同期比52.7%減)、プロトンポンプ阻害剤「パリエット」(米国名「アシフェックス」)が632億77百万円(同10.0%減)となりました。一方、中期戦略計画「はやぶさ」で掲げたがん関連領域製品へのトランスフォーメーションは、新たに発売した新規抗がん剤「ハラヴェン」の貢献により着実に進行し、がん関連領域製品の売上高は463億4百万円(同17.2%増)、連結売上高構成比は前年同期9.6%から14.0%に拡大いたしました。

○ 利益については、米国における「アリセプト」物質特許満了後の米国ファイザー社に対する提携費用減少等により販売費が大きく減少したものの、売上高減少に伴う粗利の減少により、営業利益、経常利益および四半期純利益は減益となりました。一方、中期戦略計画「はやぶさ」でめざす効率的なオペレーション体制へのトランスフォーメーションが着実に進行し、営業利益率においては、前年通期の14.7%から0.5ポイント改善し15.2%となりました。

○ これにより、1株当たり四半期純利益は116円95銭(前年同期より23円26銭減)となりました。

○ 四半期純利益に少数株主損益およびその他の包括利益を加減した四半期包括利益は62億20百万円となりました。

[キャッシュ・インカム]

○ 当社グループは、キャッシュ創出力を表す経営指標として、キャッシュ・インカムを使用しております。

○ キャッシュ・インカムは、成長投資、配当支払、借入返済等に使用可能なキャッシュの総額であり、企業の成長性・戦略を検証する尺度と考えております。

○ 当四半期純利益は333億26百万円、有形・無形固定資産の減価償却費は207億33百万円、のれん償却額は36億10百万円となりました。

○ その結果、当四半期のキャッシュ・インカムは576億71百万円(前年同期比13.6%減)となり、1株当たりキャッシュ・インカムは202円38銭(前年同期より31円87銭減)となりました。

*キャッシュ・インカムの算式

当期純損益＋有形・無形固定資産減価償却費＋インプロセス研究開発費＋のれん償却額
＋減損損失（投資有価証券評価損含む）

*1株当たりキャッシュ・インカムの算式

キャッシュ・インカム÷期中平均株式数（自己株式控除後）

[セグメントの状況]

(各セグメントの売上高は外部顧客に対するものであります)

当社グループのセグメントは、医薬品事業とその他事業から構成されており、医薬品事業の各リージョンを報告セグメントとしております。平成24年3月期より、医薬品事業をイースト・アジア（日本、中国、韓国、台湾、香港）、米国、欧州、ニューマーケット・アセアン（ブラジル、メキシコ、ロシア、カナダ、オーストラリア、インド、中東、東南アジア等）の4つの新しい報告セグメントとして構成いたしました。これに伴い、本資料のセグメント情報に関する平成23年3月期の金額を新しい報告セグメントに基づいて記載しております。

<イースト・アジア医薬品事業>

- 売上高は1,996億18百万円（前年同期比7.7%増）、セグメント利益は841億43百万円（同11.4%増）となりました。うち、日本医薬品事業の売上高は1,856億4百万円（同8.6%増）、セグメント利益は809億26百万円（同11.9%増）であります。また、イースト・アジアの連結売上高構成比は、前年同期を15.4ポイント上回る60.3%（前年同期は44.9%）となり、中期戦略計画「はやぶさ」で掲げる売上高構成のトランスフォーメーションが着実に進行しております。
- 「アリセプト」の売上高は603億94百万円（前年同期比12.7%増）、「パリエット」の売上高は310億65百万円（同2.2%減）となりました。うち、日本医薬品事業の「アリセプト」の売上高は575億52百万円（同13.1%増）、「パリエット」の売上高は296億63百万円（同0.7%減）、「ハラヴェン」の売上高は5億89百万円であります。

<米国医薬品事業>

- 売上高は819億90百万円（前年同期比54.9%減、現地通貨ベースでは49.7%減）、セグメント利益は183億円2百万円（同68.0%減、現地通貨ベースでは64.4%減）となりました。
- 「アリセプト」の売上高は73億35百万円（前年同期比93.1%減、現地通貨ベースでは92.3%減）、「アシフェックス」の売上高は285億36百万円（同16.1%減、現地通貨ベースでは6.5%減）、「ハラヴェン」の売上高は51億6百万円であります。
- 「アリセプト」の売上高のうち、高用量製剤「アリセプト錠23mg」の売上高は18億73百万円、AG（Authorized Generic：先発メーカーの許可を得て発売されるジェネリック医薬品）関連の売上高は27億66百万円であります。

<欧州医薬品事業>

- 売上高は238億43百万円（前年同期比8.0%増）、セグメント利益は38億67百万円（同38.5%増）となりました。
- 「アリセプト」の売上高は126億94百万円（前年同期比9.4%増）、「パリエット」の売上高は27億21百万円（同26.0%減）、「ハラヴェン」の売上高は5億20百万円であります。

<ニューマーケット・アセアン医薬品事業>

- 売上高は36億81百万円（前年同期比5.5%増）、セグメント利益は5億44百万円（同12.6%減）となりました。
- 「アリセプト」の売上高は9億30百万円（前年同期比11.7%増）、「パリエット」の売上高は9億53百万円（同7.2%増）、「ハラヴェン」の売上高は17百万円であります。

- カナダでてんかん治療剤「BANZEL」およびインプラント型脳腫瘍治療剤「グリアデル・ウエハー」の新発売、ブラジルおよびメキシコで医薬品販売会社の設立等、ニューマーケットにおけるビジネス基盤の拡大を図りました。

2) 研究開発などの状況

[開発品の状況]

- 抗がん剤「ハラヴェン」(「E7389」、微小管ダイナミクス阻害剤)に関しては、乳がんに係る効能・効果で、米国、シンガポール、欧州(EU)、日本、スイスなどで順次承認を取得し、平成23年10月現在で承認取得国は34カ国となりました。また、新たに8月にはオーストラリア、9月には韓国、10月にはタイ、マレーシア、香港で承認申請をいたしました。米国で進行中であった肉腫を対象としたフェーズⅢ試験は、国際共同治験として取り組むこととなり、日本においてもフェーズⅡ試験を開始しました。また、新たに非小細胞肺癌を対象としたフェーズⅢ試験を開始し、国際共同治験として取り組むこととなりました。あわせて、乳がん化学療法のセカンドラインをめざしたフェーズⅢ試験(欧米)等も進めております。
- AMPA受容体拮抗剤「E2007」(一般名：ペランパネル)に関しては、平成23年6月に欧州で、部分てんかんの併用療法に係る適応で、承認申請が受理されました。米国においては、平成23年5月に承認申請を米国食品医薬品局(FDA)へ提出していましたが、予備審査の結果、一部データのフォーマット変更等を求められ、再提出に向けて準備中であります。また、全般てんかんの併用療法については、欧米に続き日本でもフェーズⅢ試験が開始され、国際共同治験として取り組んでおります。
- 平成23年5月、日本で、カルシウム拮抗性不整脈治療剤「ワソラン錠 40mg」および「ワソラン静注 5mg」について、上室性の頻脈性不整脈に関する小児適応追加の承認を取得いたしました。
- 平成23年6月、カナダで、てんかん治療剤「BANZEL」について、4歳以上の小児および成人におけるレノックス・ガストー症候群に伴うてんかん発作の併用療法に関する適応で承認を取得いたしました。
- 平成23年7月、日本で、ヒト型抗ヒトTNF α モノクローナル抗体「ヒュミラ」について、若年性特発性関節炎に関する効能・効果追加の承認を取得いたしました。また、あわせて、体重の少ない患者様向けの新製剤「ヒュミラ皮下注 20mg シリンジ 0.4mL」も製造販売承認を取得いたしました。
- 平成23年7月、日本で、経口抗凝固剤「ワーファリン」について、新剤形である顆粒剤の剤形追加の承認を取得し、平成23年10月、顆粒剤の小児における用法・用量追加の承認を取得しました。
- 平成23年7月、米国で、DNAメチル化阻害剤「Dacogen」について、急性骨髄性白血病の適応追加の承認申請が受理されました。また、米国で、急性骨髄性白血病における小児適応追加のフェーズⅡ試験が進行中であります。
- 平成23年7月、欧州で、てんかん治療剤「ゾネグラン」について、部分てんかんの単剤療法に関する適応追加の承認申請が受理されました。
- 平成23年8月、日本で、抗リウマチ薬「T-614」について、関節リウマチに係る適応で承認申請をいたしました。

- 平成 23 年 9 月、欧米で、プロトンポンプ阻害剤「パリエット／アシフェックスエクステン
ドリリース 50mg 製剤」について、開発を終結することを決定し、申請を取り下げました。
- 平成 23 年 9 月、日本で、ヒト型抗ヒト TNF α モノクローナル抗体「ヒュミラ」につい
て、関節リウマチにおける関節の構造的損傷の防止に関する効能・効果追加の承認申請を
いたしました。
- 抗がん剤「E 7 0 8 0」（VEGF 受容体チロシンキナーゼ阻害剤／マルチキナーゼ阻害剤）
について、米国に続き、日本でも甲状腺がんを対象としたフェーズⅢ試験を開始し、国際
共同治験として取り組んでおります。あわせて、子宮内膜がん（欧米）およびメラノーマ
（欧米）、グリオーマ（米国）を対象としたフェーズⅡ試験も進めております。
- 抗がん剤「MORAb-003」（一般名：farletuzumab、モノクローナル抗体）につい
て、プラチナ製剤感受性卵巣がんを対象としたフェーズⅢ試験が、国際共同治験として進
行中であります。また、欧米で、プラチナ製剤耐性卵巣がんを対象としたフェーズⅢ試験
が開始され、進行中であります。あわせて、米国で非小細胞肺がんを対象に葉酸受容体ア
ルファの発現をバイオマーカーとしたフェーズⅡ試験も進めております。
- 抗がん剤「ONTAK」について、米国で、末梢性 T 細胞リンパ腫を対象としたフェーズⅢ試験
を開始いたしましたが、患者様価値向上に向けた改良型新製剤の開発を優先するため、当
該試験を一旦中止いたしました。
- プロトンポンプ阻害剤「パリエット」について、日本で、低用量アスピリン投与時におけ
る胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制を対象としたフェーズⅡ／Ⅲ試験を開始いたしまし
た。
- 抗がん剤「MORAb-004」（モノクローナル抗体）について、米国でメラノーマを
対象としたフェーズⅡ試験が開始され、進行中であります。
- ホスホジエステラーゼ 4 阻害剤「E 6 0 0 5」について、日本でアトピー性皮膚炎を対象
としたフェーズⅡ試験を開始いたしました。

[主な提携などの状況]

- 平成 23 年 4 月、PRISM Biolab 株式会社（横浜市）と CBP／ β カテニン阻害剤である化合
物とその類縁化合物に関するライセンスおよび共同研究開発契約を締結いたしました。
- 平成 23 年 9 月、外部リソースの有効活用により新薬後期臨床開発をさらに加速させること
を目的として、SFJ Pharmaceuticals, LP., II（米国カリフォルニア州）の子会社 SFJ Pharma
Ltd. と抗がん剤「E 7 0 8 0」の甲状腺がんに係る第Ⅲ相試験に関する共同開発契約を締
結いたしました。
- 平成 23 年 9 月、米国ジョンス・ホプキンス大学との神経領域における創薬研究の共同研究
契約を締結いたしました。

[その他]

- 平成 23 年 4 月、当社の診断薬事業子会社であるエーディア株式会社は、日本で、循環器救急疾患の早期診断に有用な P O C T（ポイント・オブ・ケア・テスト）機器「コバス h232」シリーズを新発売いたしました。販売に当たっては、当社がコ・プロモーションを展開いたします。
- 平成 23 年 4 月、ブラジルに医薬品販売会社 Eisai Participações Ltda. を設立いたしました。当社グループとしてラテンアメリカにおける初めての医薬品販売拠点となります。
- 平成 23 年 4 月、ソルベイ製薬株式会社（現：アボット ジャパン株式会社）と、日本において共同開発を進めてきた膵消化酵素補充剤「リパクレオン」に関し、アボット ジャパン株式会社が膵外分泌機能不全における膵消化酵素の補充の効能・効果で製造販売承認を取得し、8 月に新発売いたしました。販売は当社がおこないます。
- 平成 23 年 5 月、韓国で、抗悪性腫瘍剤「Symbenda」（日本名「トレアキシン」）について、慢性リンパ性白血病および多発性骨髄腫の効能・効果で輸入販売承認を取得し、10 月に新発売いたしました。
- 平成 23 年 8 月、メキシコに医薬品販売会社 Eisai Laboratorios S. de R.L. de C.V. を設立いたしました。
- 平成 23 年 8 月、当社の診断薬事業子会社であるエーディア株式会社は、日本で、国内初となる大腸検査 C T コロノグラフィー用の炭酸ガス送気装置「プロト C O 2 L」および炭酸ガス送気用チューブ「プロト C O 2 L カテーテルセット」の製造販売承認を取得し、発売をいたしました。販売に当たっては、当社がコ・プロモーションを展開いたします。
- 平成 23 年 9 月、日本において、加齢などで弱った胃を整える一般用医薬品「セルベール」ブランドの新製品、「新セルベール整胃＜錠＞」および「新セルベール整胃＜細粒＞」（いずれも第 2 類医薬品）を新発売いたしました。
- 平成 23 年 9 月、日本において「アリセプト」の高度アルツハイマー型認知症に係る特許権の存続期間の延長登録を維持する旨の知的財産高等裁判所の判決に対する後発品会社複数社による上告について、最高裁判所が当該上告を棄却する決定を下しました。本決定により、「アリセプト」に関する、高度アルツハイマー型認知症用途に係る特許権の存続期間は平成 25 年 6 月 22 日まで延長されることが確定いたしました。

3) 連結財政状態に関する定性的情報

〔資産等の状況〕

- 当第2四半期末の資産合計は、9,432億8百万円(前期末より1,030億83百万円減)となりました。平成20年に発行した第5回無担保社債400億円の満期償還による現金支出、有価証券・投資有価証券の減少、為替変動による海外子会社資産の円換算額の減少等により、資産が減少いたしました。
- 負債合計は社債の満期償還、法人税の支払い等により、5,493億56百万円(前期末より865億64百万円減)となりました。
- 純資産合計は為替変動による海外子会社純資産額の減少、配当金の支払い等により、3,938億51百万円(前期末より165億19百万円減)となり、自己資本比率は41.1%(同2.5ポイント増)となりました。

〔キャッシュ・フローの状況〕 (平成23年4月1日～平成23年9月30日)

- 営業活動から得たキャッシュ・フローは、363億74百万円(前年同期より482億56百万円減)となりました。税金等調整前四半期純利益は496億69百万円、減価償却費は207億33百万円、法人税等の支払額は247億1百万円であります。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、120億30百万円の収入(前年同期は268億70百万円の支出)となりました。有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入は、181億73百万円であります。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、634億31百万円の支出(前年同期より199億72百万円増)となりました。社債の満期償還による支出は400億円、配当金の支払額は227億96百万円であります。
- 以上の結果、当第2四半期末における現金及び現金同等物は、812億24百万円(前期末より215億76百万円減)となりました。

4) 利益配分に関する考え方および当中間（第2四半期末）配当

剰余金の配当については、連結業績、連結純資産配当率（DOE）およびキャッシュ・インカムを総合的に勘案し、株主の皆様へ継続的・安定的に実施しております。

DOEは、株主の皆様への利益配分を示す配当性向（DPR）と、株主の皆様が投資した資金を使いどれだけ効果的に利益を出せたかを示す自己資本当期純利益率（ROE）の2つの要素が含まれております。

キャッシュ・インカムは、企業のキャッシュ創出力を表わしております。その用途は、株主様への配当支払い、成長投資および借入金返済等の財務体質の強化などであり、それぞれに対し中期的に3分の1ずつバランスよく配分することが重要であると考えております。

このような観点から、連結業績に加えDOEならびにキャッシュ・インカムの配分を総合的に勘案することは、中期的な株主還元指標としてバランスのとれた相応しいものと考えております。また、自己株式の取得に関しては、適切な時期に実施いたします。

当社は委員会設置会社であり、剰余金の配当等に関しては機動的に行うことを目的として取締役会決議とすることを定款に定めております。

当中間（第2四半期末）配当金は、株主の皆様への継続的・安定的な配当という基本方針に基づき、1株当たり70円（前年同期と同額）とさせていただきます。

5) 連結業績予想に関する定性的情報（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

[連結業績予想]

- 通期の連結業績の見通しについては、今年8月に発表した予想を、次のとおり修正いたします。

	今回発表予想		前回発表予想		増減額	増減率
	(A)	前期比	(B)	前期比	(A－B)	
売上高	6,540億円	14.9%減	7,000億円	9.0%減	△460億円	△6.6%
営業利益	1,000億円	11.6%減	1,090億円	3.6%減	△90億円	△8.3%
経常利益	940億円	10.7%減	1,040億円	1.1%減	△100億円	△9.6%
当期純利益	675億円	0.2%増	695億円	3.1%増	△20億円	△2.9%

* 1株当たり予想当期純利益（通期） 236円87銭

（第3・4四半期の前提為替レート：1米ドル77円、1ユーロ100円、1ポンド115円）

<売上高>

- 売上高については、構成比の最も高いイースト・アジア医薬品事業および「ハラヴェン」等のがん関連領域製品において順調に推移しておりますが、為替の影響および米国アリセプトの直近の販売動向を踏まえ、6,540億円（前回予想より460億円減）を見込んでおります。
- 主力品の「アリセプト」は、為替の影響および米国の直近の状況に鑑み、1,560億円（前回予想より315億円減）、「パリエット／アシフェックス」は、為替の影響および各セグメントの直近の状況に鑑み、1,250億円（前回予想より75億円減）を見込んでおります。

<利益>

- 営業利益は、前回予想を90億円下回る1,000億円を予想しておりますが、営業利益率においては、販売費・一般管理費のさらなる効率化を進め、前年通期14.7%を0.6%上回る15.3%と収益性の向上を見込んでおります。
- 当期純利益は、投資有価証券等資産の効率化を継続的にはかることにより、増益を見込んでおります。
- キャッシュ・インカムは、1,160億円を見込んでおり、利益配分の基本方針に沿って、そのほぼ1/3を配当（前回同様、年間1株当たり150円）に充てることを予定しております。

[将来予想に関する事項と事業等のリスク]

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、現在における予想、目標、評価、見通し、リスクを伴う想定などの不確実性に基づくものを含んでおります。従って、さまざまな要因の変化により、将来予想などが実際の結果と大きく乖離する可能性があります。リスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった日本および国際的な経済状況が含まれております。
- 当社グループの連結業績を大幅に変動させる、あるいは投資判断に重要な影響を及ぼす可能性のあるリスクは、次のとおりであります。なお、これらのリスクは、本資料作成日現在において判断、予想したものであります。

海外展開におけるリスク、新薬開発の不確実性、特定の製品への依存に関するリスク、他社とのアライアンスにおけるリスク、医療費抑制策、後発医薬品に関する競合・訴訟、知的財産に関するリスク、副作用発現のリスク、法規制に関するリスク、訴訟に関するリスク、工場の閉鎖または操業停止、使用原材料の安全性および品質に関するリスク、外部へ

の業務委託に関するリスク、環境に関するリスク、ITセキュリティおよび情報管理に関するリスク、金融市況および為替の動向に関するリスク、内部統制の整備等に関するリスクならびに災害等に関するリスク。

なお、上記リスク項目の詳細に関しては、当社の有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

6) コーポレートガバナンスに関連する事項

当社グループは、国内外のグループ企業における共通の「知」である企業理念の実現を通して、企業価値を向上させ、株主の皆様の共同の利益を長期的に増大させるために、長期的な視野のもと企業活動を実行していかなければならないと考えております。そのためには株主の皆様からの信頼を得ることが重要であり、当社グループは、最良のコーポレートガバナンスの実現に向けて、その充実に取り組んでおります。

当社は、委員会設置会社であり、経営の監督機能と業務執行機能を明確に分離することを基軸とし、取締役会は、法令の範囲内で、社の業務決定を大幅に執行役に委任することで、経営の監督に専念するシステムとしております。また、株主の皆様をはじめとするステークホルダーズの皆様の立場から客観的かつ公正な経営の監督を行うために、取締役の過半数を社外取締役としております。さらに、取締役会の議長と代表執行役社長を分離するとともに取締役会の議長を社外取締役とし、執行役を兼任する取締役は代表執行役社長1名としております。社外取締役は、法令に定める要件に加え、当社の指名委員会が定めた「社外取締役の独立性・中立性の要件」を満たしております。指名委員会と報酬委員会は、すべて社外取締役で構成し、監査委員会は過半数を占める社外取締役と社内事情に精通した社内取締役で構成するとともに委員長を社外取締役としております。

また、当社は、社外取締役全員で構成する経営陣から独立した社外取締役独立委員会を設置しております。当委員会は、「当社企業価値・株主共同の利益の確保に関する対応方針」（以下、本対応方針）の継続、見直し、廃止および本対応方針を運用する役割を担っております。

平成23年6月21日、第99回定時株主総会後の取締役会終了後に開催された社外取締役独立委員会において、第V期中期戦略計画を1年前倒しで終了させ、平成27年度を最終年度とする新たな中期戦略計画「はやぶさ」を平成23年度からスタートしたことに伴い、本対応方針の有効期間を計画「はやぶさ」（平成23年4月から平成28年3月を対象）を包含すべく平成28年6月30日までとすること、ならびに本対応方針導入以降の法令および東京証券取引所の諸規則の改正および買収防衛策に関する近時の議論の動向等も踏まえ、一部記載事項の追加や文言の変更等を行うものの、現行の内容で継続することを当社取締役会に提案する旨が決議されました。平成23年8月2日開催の取締役会では、社外取締役独立委員会から提案された本対応方針の継続および一部記載の変更等が審議され、承認されました。本件については、同日、「当社企業価値・株主共同の利益の確保に関する対応方針（買収防衛策）の継続について」としてリリースいたしました。

(<http://www.eisai.co.jp/news/news201158.html>)

当社は、今後とも、コーポレートガバナンスの充実につとめるとともに、経営に関する重要な情報を積極的かつ適時・適切に開示することによって、公正かつ透明性の高い経営を遂行してまいります。

なお、当社のコーポレートガバナンスガイドライン、取締役会規則、指名委員会規則、監査委員会規則、報酬委員会規則、およびコーポレートガバナンスシステムに関する状況を当社のホームページ (<http://www.eisai.co.jp/company/governance/index.html>) に掲載しております。また、「コーポレートガバナンス報告書」を東京証券取引所ならびに大阪証券取引所へ報告し、両取引所ならびに当社のホームページに掲載しております。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

3) 会計方針の変更・会計上の見積もりの変更・修正再表示

第1 四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号 平成22年6月30日）および「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日）を適用しております。

潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定にあたり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

これらの会計基準等を適用しなかった場合の前第2 半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の金額は、140円20銭であります。

(追加情報)

第1 四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更および過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）および「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表
1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年 3 月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成23年 9 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	111,356	96,638
受取手形及び売掛金	195,234	191,155
有価証券	70,301	57,168
商品及び製品	38,496	38,701
仕掛品	18,677	18,749
原材料及び貯蔵品	13,633	12,318
繰延税金資産	39,172	38,387
その他	22,576	18,352
貸倒引当金	△89	△113
流動資産合計	509,359	471,357
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	85,232	81,297
その他（純額）	63,900	58,901
有形固定資産合計	149,132	140,198
無形固定資産		
のれん	128,450	114,765
販売権	83,037	69,315
技術資産	43,687	39,017
その他	13,035	12,182
無形固定資産合計	268,211	235,281
投資その他の資産		
投資有価証券	54,561	34,162
繰延税金資産	57,802	55,710
その他	7,428	6,659
貸倒引当金	△204	△162
投資その他の資産合計	119,588	96,370
固定資産合計	536,932	471,850
資産合計	1,046,291	943,208

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,004	23,461
1年内返済予定の長期借入金	—	40,000
1年内償還予定の社債	39,999	—
未払金	46,432	39,321
未払費用	58,805	47,349
未払法人税等	24,070	12,654
売上割戻引当金	23,872	15,323
その他の引当金	500	663
その他	9,430	8,550
流動負債合計	225,116	187,325
固定負債		
社債	79,992	79,993
長期借入金	259,890	215,990
繰延税金負債	24,802	21,172
退職給付引当金	29,225	27,887
役員退職慰労引当金	805	569
その他	16,089	16,418
固定負債合計	410,804	362,031
負債合計	635,921	549,356
純資産の部		
株主資本		
資本金	44,985	44,985
資本剰余金	56,910	56,902
利益剰余金	448,410	458,940
自己株式	△39,499	△39,465
株主資本合計	510,807	521,363
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	69	△1,771
繰延ヘッジ損益	△808	△1,058
為替換算調整勘定	△105,898	△130,862
その他の包括利益累計額合計	△106,636	△133,692
新株予約権	870	930
少数株主持分	5,329	5,249
純資産合計	410,370	393,851
負債純資産合計	1,046,291	943,208

2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位: 百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	412,283	331,021
売上原価	84,134	85,600
売上総利益	328,149	245,420
返品調整引当金繰入額	—	71
返品調整引当金戻入額	19	—
差引売上総利益	328,169	245,348
販売費及び一般管理費	※1 260,977	※1 194,900
営業利益	67,191	50,448
営業外収益		
受取利息	503	358
受取配当金	525	535
その他	152	204
営業外収益合計	1,181	1,097
営業外費用		
支払利息	3,751	3,536
為替差損	2,313	534
その他	139	127
営業外費用合計	6,205	4,199
経常利益	62,167	47,347
特別利益		
固定資産売却益	28	13
投資有価証券売却益	0	483
退職給付信託設定益	—	1,881
その他	20	2
特別利益合計	49	2,379
特別損失		
固定資産処分損	256	51
減損損失	305	—
投資有価証券評価損	350	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	654	—
その他	8	6
特別損失合計	1,576	57
税金等調整前四半期純利益	60,640	49,669
法人税、住民税及び事業税	23,092	14,208
法人税等調整額	△2,604	1,924
法人税等合計	20,487	16,133
少数株主損益調整前四半期純利益	40,152	33,536
少数株主利益	202	209
四半期純利益	39,949	33,326

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	40,152	33,536
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,922	△1,853
繰延ヘッジ損益	△649	△250
為替換算調整勘定	△30,925	△25,211
その他の包括利益合計	△34,497	△27,315
四半期包括利益	5,655	6,220
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,538	6,271
少数株主に係る四半期包括利益	117	△50

3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	60,640	49,669
減価償却費	22,097	20,733
のれん償却額	4,043	3,610
その他の損益(△は益)	3,633	316
売上債権の増減額(△は増加)	△7,115	△649
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,555	△2,091
仕入債務の増減額(△は減少)	2,842	3,225
その他の流動負債の増減額(△は減少)	3,619	△11,419
売上割戻引当金の増減額(△は減少)	4,694	△6,962
その他	1,786	7,339
小計	94,685	63,771
利息及び配当金の受取額	965	969
利息の支払額	△3,703	△3,665
法人税等の支払額	△7,316	△24,701
営業活動によるキャッシュ・フロー	84,631	36,374
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△6,381	△5,489
無形固定資産の取得による支出	△1,921	△2,401
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△1,344	△3,526
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	1,518	18,173
3カ月超預金の純増減額(△は増加)	△19,367	4,994
その他	625	280
投資活動によるキャッシュ・フロー	△26,870	12,030
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△20,000	—
社債の償還による支出	—	△40,000
配当金の支払額	△22,795	△22,796
その他	△664	△635
財務活動によるキャッシュ・フロー	△43,459	△63,431
現金及び現金同等物に係る換算差額	△9,822	△6,550
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,478	△21,576
現金及び現金同等物の期首残高	115,128	102,800
現金及び現金同等物の四半期末残高	119,607	81,224

4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

5) セグメント情報

当第1四半期連結会計期間より、当連結グループは報告セグメントの区分方法を変更しております。

I. 前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

変更後の区分方法により作成した前第2四半期連結累計期間の報告セグメントの売上高、利益(又は損失)に関する情報は次のとおりであります。

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益(又は損失)金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	医薬品事業						
	イースト・ アジア	米国	欧州	ニュー マーケット・ アセアン	計		
外部顧客への売上高	185,268	181,703	22,079	3,489	392,541	19,742	412,283
セグメント利益	75,558	57,229	2,792	622	136,203	9,081	145,285

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医薬品原料・製薬用機械などに係る事業を含んでおります。

(2) 報告セグメントの利益(又は損失)の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利 益	金 額
報告セグメントの利益計	136,203
「その他」の区分の利益	9,081
研究開発費(注1)	△73,837
親会社の本社管理費等(注2)	△4,256
四半期連結損益計算書の営業利益	67,191

(注)1. 当連結グループは、研究開発費をグローバルに管理しているため、セグメントに配分しておりません。

(注)2. 親会社の本社管理費等は、当連結グループ全体の運営に係る費用であるため、セグメントに配分しておりません。

(3) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ. 当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益(又は損失)金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	医薬品事業						
	イースト・ アジア	米国	欧州	ニュー マーケット・ アセアン	計		
外部顧客への売上高	199,618	81,990	23,843	3,681	309,134	21,886	331,021
セグメント利益	84,143	18,302	3,867	544	106,857	10,500	117,358

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医薬品原料・製薬用機械などに係る事業を含んでおります。

(2) 報告セグメントの利益(又は損失)の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利 益	金 額
報告セグメントの利益計	106,857
「その他」の区分の利益	10,500
研究開発費(注1)	△62,922
親会社の本社管理費等(注2)	△3,987
四半期連結損益計算書の営業利益	50,448

(注)1. 当連結グループは、研究開発費をグローバルに管理しているため、セグメントに配分しておりません。

(注)2. 親会社の本社管理費等は、当連結グループ全体の運営に係る費用であるため、セグメントに配分しておりません。

(3) 報告セグメントの変更等に関する事項

当連結グループのセグメントは、医薬品事業とその他事業から構成されており、医薬品事業の各リージョンを報告セグメントとしております。

当連結グループは、従来、医薬品事業を日本、米国、欧州、アジア(中国含む)、ニューマーケット(インド・中東等)の5リージョン体制としておりましたが、第1四半期連結会計期間よりイースト・アジア(日本、中国、韓国、台湾、香港)、米国、欧州、ニューマーケット・アセアン(ブラジル、メキシコ、ロシア、カナダ、オーストラリア、インド、中東、東南アジア等)の4リージョンに変更いたしました。

これに伴い報告セグメントの区分方法を変更し、日本医薬品事業および従来アジア医薬品事業に含めていた中国、韓国、台湾、香港をイースト・アジア医薬品事業に、中国、韓国、台湾、香港を除くアジア医薬品事業およびニューマーケット医薬品事業をニューマーケット・アセアン医薬品事業に区分しております。この区分方法の変更は前第2四半期連結累計期間のセグメント情報に反映しております。

(4) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

7) 重要な後発事象
該当事項はありません。

8) 注記事項

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)												
※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は、次のとおりであります。 <table> <tr> <td>販売諸費</td><td>102,086 百万円</td></tr> <tr> <td>研究開発費</td><td>73,837 百万円</td></tr> <tr> <td>給料及び賞与</td><td>31,672 百万円</td></tr> </table>	販売諸費	102,086 百万円	研究開発費	73,837 百万円	給料及び賞与	31,672 百万円	※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は、次のとおりであります。 <table> <tr> <td>販売諸費</td><td>52,541 百万円</td></tr> <tr> <td>研究開発費</td><td>62,922 百万円</td></tr> <tr> <td>給料及び賞与</td><td>28,636 百万円</td></tr> </table>	販売諸費	52,541 百万円	研究開発費	62,922 百万円	給料及び賞与	28,636 百万円
販売諸費	102,086 百万円												
研究開発費	73,837 百万円												
給料及び賞与	31,672 百万円												
販売諸費	52,541 百万円												
研究開発費	62,922 百万円												
給料及び賞与	28,636 百万円												